

平成30年度 農山漁村振興交付金(農福連携対策) 事業実施主体 評価一覧

●農福連携対策(普及啓発等推進対策事業を除く)

2件

農政局等	都道府県	市 町 村	事業実施主体名	事業実施段階			評 価	評 価 コ メ ン ト
				H30	R元	R2		
沖縄	沖縄	宮古島市	社会福祉法人みやこ福祉会	●	-	□	A	<p>苗テラス(野菜の水耕栽培)の照明をLED照明に取り替えることによって、経費の合理化を図り、より安定的な生産が可能となった。</p> <p>ソフトの取組として、生産された野菜を使用しているレストランでの障害者の作業マニュアルを作成したことにより障害者の労働環境を整えることができた。</p> <p>これらの成果により、雇用・就労、売上げ、交流人口の目標ともに達成している。</p> <p>なお、視察の受入れなど、これまで蓄積されてきた知見の公開にも取り組んでおり、今後も先駆者としての積極的な活動と展開が期待される。</p>
沖縄	沖縄	南風原町	公益社団法人沖縄県精神保健福祉会連合会てるしのワークセンター	●	○	□	B	<p>障害者と支援員の両者が働きやすい環境整備のために、先進地視察や農業技術の研修に取り組んだ。</p> <p>雇用・就労、売上げの目標は達成することができなかったが、交流人口については目標を達成することができた。</p> <p>地域との交流活動については、地元紙に掲載されたり、テレビ局からの取材を受けるなどされている。</p> <p>持続的な取組のためには、実施体制の整備が課題だが、平成30年度末には農産物の販売先を確保しており、都市地域からのアクセスの優位性から販路拡大の可能性は大きく、今後の取組及びその成果に期待ができる。</p>

(注1)「事業実施段階」の凡例: ソフト対策 ○・・交付対象年度(計画) ●・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)
ハード対策 ☆・・交付対象年度(計画) ★・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)

(注2)「評価」の区分: A・・優良 B・・良好 C・・低調

【平成30年度農山漁村振興交付金（農福連携対策）の評価概要】

今回の評価では、平成30年度採択の2地区の評価を行い、みやこ福祉会は総合評価A、てるしのワークセンターは総合評価Bであった。
A評価である、みやこ福祉会においては、雇用についての実績が目標人数より多く、地域の雇用の場としても大きな役割を果たしている。
B評価である、てるしのワークセンターにおいても、地域との交流（交流人口）の取組は目標を大幅に上回っているなど、積極的な活動は行っており、地域への貢献も大きい。

【令和元年度評価委員会の議事概要】

【評価委員会】

1. 日 時 令和元年7月24日（水）10時00分～12時00分
2. 場 所 沖縄総合事務局 会議室
3. 出席者

・評価委員会委員 3名 （五十音順）
有木 真理 リクルートライフスタイル沖縄社長
幸喜 徳子 沖縄石油ガス株式会社代表取締役会長
杉村 泰彦（委員長） 琉球大学農学部准教授

・評価委員会事務局 沖縄総合事務局 3名

4. 議事概要

- 1) 農山漁村振興交付金の評価について
農福連携対策の各実施団体の評価内容（案）について、委員からの意見聴取を行った。
- 2) 農山漁村振興交付金の評価結果（案）のとりまとめ
上記1)の結果を踏まえ、農福連携対策について、公表用評価コメントを様式にとりまとめた。

5. 評価委員会委員の主な意見

- ① 社会福祉法人みやこ福祉会
福祉農園施設の経費の合理化、福祉農園の関連施設での障害者の労働環境の整備に取り組んだ。事業の成果も発揮されており、農福連携の先進地として、蓄積されたノウハウ等を広める活動も行っており、今後の活動に期待ができる。
- ② 公益社団法人沖縄県精神保健福祉会てるしのワークセンター
福祉農園での障害者と支援員の両者が働きやすい環境整備に取り組んだ。事業実施体制の整備について課題があり、目標についても十分達成できていない箇所があるものの、前向きに取り組んでおり、次年度以降の取組に期待する。